

## 切除不能膵癌に対する温熱化学放射線療法—JPS 第7版による再検討—

社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院

放射線科 平尾幸一、堀上謙作、末吉 真

臨床工学部 中島喜代子、上原かをる、関谷光彬、森田晃平

長崎大学医学部放射線医学教室 山崎拓也

【はじめに】 当院では、外科的切除不能膵癌に対して、温熱化学放射線療法（以下、HCR療法）行ってきた。昨年、JPS 第7版へ改訂されたことに伴い、cStageⅢ、Ⅳの症例を再検討したので報告する。

【症例】 2001年4月～2017年1月までに、PSが0または1のcStageⅢ8例、Ⅳ14例にHCR療法を行った。ハイパーサーミアは、山本ビニター社製Thermotron RF-8を用いて、1～2週に1回、50分の加温を、4～80回行った。放射線治療は、19例で外照射50.4Gy4門28frで照射し、1例で術中照射を併用した。化学療法にはGEM単独、GEM+TS-1、TS-1、nabPTX+GEM、FORFILINOxを用いた。

【結果】 局所制御率は、PR4例、SD14例であった。Grade3以上の有害事象は、15例で生じた。cStageⅢ8例の生存期間は9～65ヶ月（MST 24ヶ月）、2年/3年生存率は50%/20%、cStageⅣ14例の生存期間は5～45ヶ月（MST 10ヶ月）、2年/3年生存率21%/7%であった。cStageⅣを領域外リンパ節転移のみの症例5例（A群）とリンパ節以外の遠隔転移を有する症例9例（B群）に分類して検討すると、A群の生存期間は8～45ヶ月（MST 19ヶ月）、2年/3年生存率は40%/20%、B群の生存期間は5～24ヶ月（MST 10ヶ月）、2年/3年生存率は11%/0%であった。

【考察】 cStageⅣについては、中間生存期間、2年/3年生存率については、諸文献と我々の報告は同等の成績であったが、cStageⅢについては我々の報告の方が治療成績が良かった。cStageⅣでもA群については、B群よりも予後が良い傾向にあった。

【結語】 stageⅢ、stageⅣのA群に対しては、HCR療法を積極的に行うべきであり、ハイパーサーミアを併用しない他の治療法を上回る治療効果を期待できる。